

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(8月27日～9月2日)

2019年9月3日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領、プーチン露大統領と電話会談(8/30)(当館注:8/30 はルカシェンコ大統領の誕生日であったため、一連の電話会談が行われた。)

●ボルトン米大統領補佐官(国家安全保障担当)のベラルーシ訪問(8/29-30)

●ベラルーシ IT 産業特区「ハイテクパーク」の売上、1年間で1.5倍に成長

大統領動静

●ミンスク州スモレーヴィチスキー地区視察(8/31)

ルカシェンコ大統領は、オゼルツキーAGRO 社を訪問、同社の農場を視察した。大統領は、「農作物の輸出拡大も大事なことから、国内の需要に応えることも肝要である。」と述べた。

(8/31 大統領公式ホームページ)

●トカエフ・カザフスタン大統領と電話会談(8/30)

両者は、二国間の協業が貿易経済分野を中心として非常に大きな動きを見せていることを確認。

(8/30 大統領公式ホームページ)

●ラフモン・タジキスタン大統領と電話会談(8/30)

両者は、二国間の協力、相互支援について協議し、両国間のパートナーシップにおける戦略的性質や相互関心について強調した。

(8/30 大統領公式ホームページ)

●ミルジョエフ・ウズベキスタン大統領と電話会談(8/30)

両者は、二国間の交流が活発化していること、またこれが政府高官の交流も助長していることを確認した。

(8/30 大統領公式ホームページ)

●プーチン露大統領と電話会談(8/30)

両者は、二国間の協力に関し、これまでの個別会談で合意された事項の実現に関する協議を行うと共に、国際問題の意見交換を行った。

(8/30 大統領公式ホームページ)

●メドヴェージェフ露首相と電話会談(8/30)

多様な分野でのロシア・ベラルーシの協力、各種問題における政府の役割について協議を行った。両者は、二国間形式および多国間枠組における相互に利益のある協力は、両国民の富の拡大、国際政治の対話強化に繋がることを確認した。

(8/30 大統領公式ホームページ)

●ボルトン米大統領補佐官(国家安全保障担当)と会談(8/29)

同会談は、当初予定されていた45分から2時間15分へ大幅に延長され、政治、経済、地域の安全保障、世界の安全保障と幅広く協議が行われた。

ルカシェンコ大統領は会談前に、「貴補佐官の訪問を巡って空騒ぎしている者もいるが、訪問は肯定的な側面が多くある。我々は、米国との関係が悪化した直後から、常に、好ましくないページを閉じて新たなページから関係を始め直すことを提案し続けてきた。」と述べた。

会談の席上、ボルトン補佐官は、非常に重要ないくつかの議題について話し合う大変良い機会である旨述べ、「米国が高い関心を有するテーマがある。人権と武器の不拡散である。忌憚なく議論するべきという貴大統領の意向に賛成する。我々は妥協点を見つけられると考えている」と述べた。同補佐官はまた、“大きな変化”を指摘し、「ソ連崩壊から多くの時間が経ち、地政学的状況も変わった。今この会談の最中もそれは変化が続いている。従って、地域の問題があり、ここから地理的に遠く離れた国々に関わる問題の中にも、この国に影響を及ぼすものもある。それらについて

て貴大統領とお話したい。」とも述べた。

会談では、ベラルーシ・イラン関係及びベラルーシ・中国関係も議論された。ボルトン補佐官は TV 局「ナスタヤーシェエ・ヴレーミヤ」のインタビューで、「ルカシェンコ大統領は自身の中国訪問について話し、訪問先で首脳とどのような話をしたかについて述べた。我々(米国)にとって、中国発の脅威について議論することが重要である。そこには知的財産の盗用、強制的技術移転、国際貿易の規則違反という、不公正な形で中国に優位をもたらしているものが含まれる。我々は、華為(ファーウェイ)などの企業からもたらされる第5世代通信規格に対する脅威についても話をした。(中国に関しては)多くの問題がある。本日の会談では深い議論はしなかったが、この諸問題についてルカシェンコ大統領と議論できたことには満足している。」と述べた。

(8/29 大統領公式ホームページ、ベルタ通信 etc)

内政

●2020年1月から国内最低賃金を375ルーブルまで引き上げ予定。

2019年1月からの国内最低賃金は330ルーブルであり、45ルーブルの増加。

(8/30 ベラパン通信)

●教育省「ベラルーシの幼稚園・保育所に、約6.5千人相当の不足がある」

2019年～2020年にかけて新たに幼稚園・保育所通学予定の児童数は43万6千人と試算されている。2015年～2018年に掛けて約3万4千人分の保育機関が設立されたものの、依然約6.5千人分(ミンスク州:約4800、ブレスト州:約1700)が足りていない、と発表した。

(8/28 ベラパン通信)

外交

●マケイ外務大臣、ボルトン米国大統領補佐官(国家安全保障担当)、ルカシェンコ大統領との会談について記者ブリーフを実施(8/30)

今回のボルトン補佐官の訪問は、完全に平穏とは言えない地域の情勢について知り、地域の各国首脳が情勢をどのように見通しているのかを知ることを目的とした、ベラルーシを含む複数国への訪問の一環として計画されていたもの。今回の訪問は非常に有意義なものであった。

どちらの側も、誰かと連帯するように或いは誰か・何かから離れるように呼びかけたりはしなかった。地域と世界の情勢、安全保障、世界の貿易経済協力、二国間関係について誠実な議論が交わされた。双方が互いを理解しようと努め、互いの言い分を聞こうとしていたことが感じられた。自分(マケイ外相)の意見では、これが最も大事なことである。

ルカシェンコ大統領からは、ウクライナ情勢についてのベラルーシの視点及び同情勢の解決方法についての提案が述べられた。対話形式については、米国の関与が必要か否かといえ、必須ではない。重要なのは紛争を解決すること。もちろん、米国その他の国の参加が解決を促進するのであれば、誰もそれに反対しないであろう。

中東情勢についても議論が交わされたが、その際、ルカシェンコ大統領は、ベラルーシ人は、紛争まじりや武力紛争による問題解決は受け入れられないということが遺伝子レベルで組み込まれている旨明言した。いかなる紛争であっても、平和的交渉、合意形成の能力、外交的手段によってのみ成功に導くことができることも、大統領は明言した。

世界の貿易経済問題、つまり現在特定の国々の間で起こっている貿易紛争についても触れられた。この点でも我が国の立場は一貫しており、貿易戦争へと突き進まず、妥協点を見出してあらゆる問題を解決すべきというもの。なぜなら、いかなる地政学的な主要プレーヤー同士による、いわゆる揉め事・喧嘩であってもベラルーシを含む小国の経済状況や貿易経済関係に影響を及ぼすからである。

二国間関係については、具体的と言うに足る議論が交わされた。大統領からは、米国が懸念を有する、気まぐれい話題についても触れられた。我々は、対話を続け、辛辣な問題を避けることなく、解決策を見つけ

る試みを続けるべきとの点で一致した。

今回は初めての(ハイレベルの)訪問となったが、双方が相互理解に努めた点で有意義であった。今次訪問受け入れの主な成果は、双方が互いの言い分を聞き、将来においてもこうした対話を続けることで一致したことであると考えている。

(8/30 外務省公式サイト)

●マケイ外務大臣、メヴリュット・トルコ外務大臣と会談(8/28)

両者は、貿易量拡大、貿易バランスの縮小、投資増加、共同経済案件の実施等、経済面を中心とした協議を行った。

マケイ外務大臣の発言概要は以下の通り。

- ・現在、トルコからベラルーシへの投資額は8億ドルに登り、トルコ資本の企業数は140社である。
- ・これらの企業の活動状況を確認するため、今度ベラルーシ外務省にて各企業代表者との面談を行う。

メヴリュット・トルコ外務大臣の発言概要は以下の通り。

- ・トルコは、ベラルーシの WTO 加盟を支持している。
- ・貿易や投資だけでなく、観光分野において、旅行客が増加していることも注意を向けるべき。
- ・トルコの航空会社がベラヴィアとの協力を進展していくことに大きなメリットを感じる。

(8/28 ベラパン通信)

経済

【国内経済】

●ヴィテプスク州経済、7ヶ月連続後退

ベラルーシ統計局によれば、ベラルーシにおいて、2019年1～7月にかけ、ヴィテプスク州を除く全ての市・州で経済成長が見られた。ヴィテプスク州の経済鈍化は、1月～7月で1.6%と試算されている。

(8/28 ベラパン通信)

●ヨーロッパ競技大会開催費用は8億4千万ベラルーシルーブル

トゥルチン第一副首相は、同大会の準備を含めた

総経費が8億4千万ベラルーシルーブルであると公表した。同副首相は、経費の約70%、6億ルーブルは将来の投資のための費用であり、ヨーロッパ競技大会がなかったとしてもいつか発生するはずであった経費であり、純経費は2億4千万ルーブルである、と述べた。さらに、純経費のうち50%はスポンサー負担であり、残りの50%は選手宿泊費用や選手の飲食代であったため実質ベラルーシ企業の利益に繋がった、と加えた。

(8/27 ベラパン通信)

●従業員平均月給が400ベラルーシルーブルを下回るベラルーシ企業数は28社

トゥルチン第一副首相は、国営テレビ局「ベラルーシ1」の`大統領との側近との会話`において、公表。さらに、同月給が500ベラルーシルーブルを下回る企業は500社超に上る、と発言。

(8/27 ベラパン通信)

【対外経済】

●ルーディ在中ベラルーシ大使、アジアインフラ投資銀行金立群行長と会談

両者は、同銀行からの資金を活用した複数の案件に関する協議を行った。

(8/30 ベラパン通信)

●2019年上半期のベラルーシの石油輸入減少量は50万トン超。

ベラルーシの2019年1月～6月のロシアからの石油輸入量は853万トン(32億ドル)であり、昨年同期対比、55万トン(2億ドル)減少した。

(8/30 ベラパン通信)

●ベラルーシ IT 産業特区「ハイテクパーク」の売上、1年間で1.5倍に成長

2019年7月1日時点でハイテクパーク入居企業の売上高は22億3千万ベラルーシルーブルと、昨年同期対比49.5%の成長であった。2019年7月1日時点での入居企業社数は563社。1年間で272社増

加。

2019年1～6月における入居企業の輸出額は9億ドルを超え、昨年同期対比38%増加。また輸出国数は118カ国と、昨年同期時点の78国より30カ国増加。19年の ICT 関連輸出額は20億ドルを超える見通し。

(8/28 ベラパン通信)

●ベラルーシ・中国共同産業特区「巨石」の売上、1年間で4倍に成長

2019年1～6月の「巨石」入居企業の売上は1680万ルーブル、と昨年同期430万ルーブルより約4倍拡大した。原料輸入額の80%が中国からの調達されている。主な輸出先は、ロシア(73.1%)と香港(20.9%)とされる。2020年には入居企業数が55社から85社へと拡大し、投資額は2020年末に10億ドルから15～20億ドルへと増加する見込み。

(8/29 ベラパン通信)

(了)